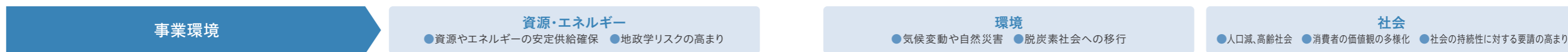


# 長期ビジョンを実現するための重要課題

伊ワタニグループは、「世の中に必要な人間となれ、世の中に必要なものこそ栄える」という企業理念のもと、2030年のありたい姿に向けて4つの長期ビジョンを達成するために、持続可能な成長と社会課題の解決に取り組んでまいります。

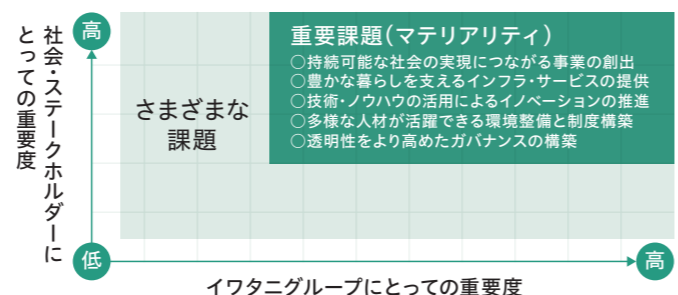
長期ビジョン	重要課題(マテリアリティ)	関連するSDGs	主な取り組み	中期経営計画
<p>2030年の姿 「住みよい地球」の実現に貢献し続ける企業グループ</p>	 <p>持続可能な社会の実現につながる事業の創出</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>フリー水素サプライチェーン商用化の推進</li> <li>低・脱炭素ソリューションの開発、普及拡大</li> <li>資源の安定供給および資源循環型事業の強化</li> </ul>	<p><b>PLAN27</b> (2023~2027) 長期ビジョンの実現を確かなものにする重要な期間</p> <p>長期ビジョンを見据えた5つの重点施策の実行</p> <p>水素戦略[→P.21] </p> <p>脱炭素戦略[→P.25] </p> <p>国内エネルギー・サービス戦略[→P.27] </p> <p>海外戦略[→P.29] </p> <p>非財務戦略 気候変動への対応[→P.53] 人材戦略[→P.31] 技術戦略[→P.33] </p>
CO <sub>2</sub> フリー水素サプライチェーン構築	 <p>豊かな暮らしを支えるインフラ・サービスの提供</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>強靱なLPガスサプライチェーンの維持および災害対策強化</li> <li>伊ワタニゲートウェイ構想の具現化</li> <li>カートリッジガス事業の海外展開、新商品開発</li> </ul>	
循環型社会の推進	 <p>技術・ノウハウの活用によるイノベーションの推進</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>水素の社会実装に向けた技術開発、市場導入</li> <li>グリーンLPガスの技術確立、実用化</li> <li>産業ガスのアプリケーション開発、品質管理・保安の強化</li> </ul>	
地域社会を支えるインフラ・サービスの提供	 <p>多様な人材が活躍できる環境整備と制度構築</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員エンゲージメントの充実に向けた制度構築</li> <li>多様性を受け入れ、尊重する職場環境の整備</li> <li>変化に対応し、価値創造を続ける人材の獲得・育成</li> </ul>	
持続的成長を推進する経営基盤の強化	 <p>透明性をより高めたガバナンスの構築</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>取締役会の機能発揮と多様性の確保</li> <li>ステークホルダーとの対話の推進</li> <li>リスク管理体制の強化</li> </ul>	



## 重要課題(マテリアリティ)の特定プロセス

課題の抽出	事業環境、SDGsやESG評価機関の評価項目から課題を抽出
課題の重要度判定	企業理念や伊ワタニ企業倫理綱領、経営戦略から重要度を分析
課題の特定	社会・ステークホルダーと伊ワタニグループ双方にとって重要なものを、重要課題(マテリアリティ)と特定

**重要課題(マテリアリティ)の考え方**  
「伊ワタニグループにとっての重要度」(横軸) および「社会・ステークホルダーにとっての重要度」(縦軸)の両面を考慮し、いずれにおいても重要度が高い要素を選定。



## SDGs(持続可能な開発目標)への対応

重要課題(マテリアリティ)の特定は、2015年に国連で採択されたSDGs(Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標)への理解と対応が不可欠であると認識しています。SDGsが掲げる17のゴール、169のターゲットと重要課題の関連性を検証し、それぞれの重要課題にSDGsを位置付けることで、伊ワタニグループは、広く社会の変革に貢献してまいります。



# 中期経営計画「PLAN27」(2023~2027)

2023年度を初年度とする5カ年の中期経営計画「PLAN27」を策定しました。

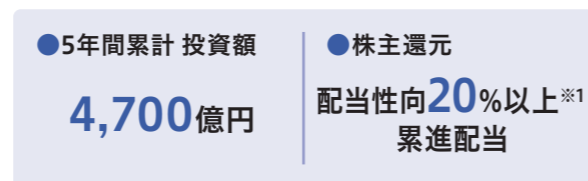
**テーマ** 水素エネルギー社会の実現に向けて

**基本方針** 「社会課題解決」と「持続的成長」に向けた事業拡大

## 経営数値目標



## 資本政策



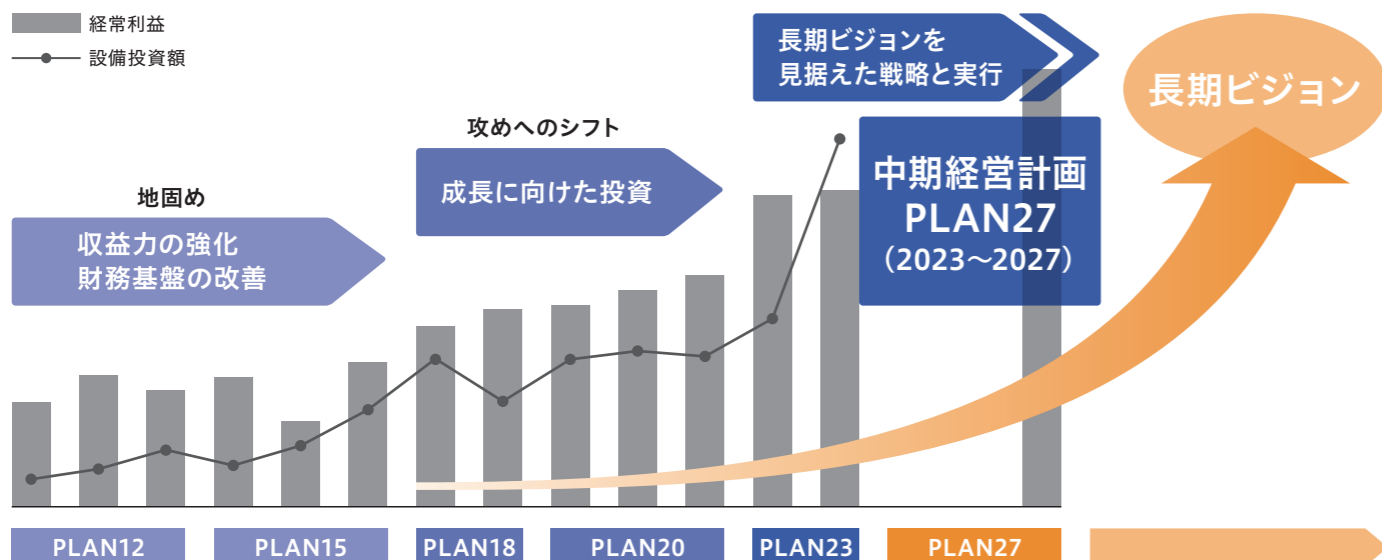
※1:市況要因を除く当期純利益ベース(2027年度目標)

## 重点施策

<b>水素戦略(→P.21)</b> ●脱炭素関連の需要拡大を捉えた、液化水素ビジネスの拡大 ●CO <sub>2</sub> フリー水素サプライチェーンの構築	<b>脱炭素戦略(→P.25)</b> ●低・脱炭素ソリューション事業の推進による事業拡大 ●脱炭素社会の実現に向けた投資
<b>国内エネルギー・サービス戦略(→P.27)</b> ●LPガスの事業インフラを活用したシェア拡大、流通合理化 ●地域の社会課題解決に貢献するサービスの提供	<b>海外戦略(→P.29)</b> ●各セグメントの強みを生かし、各地域の事業を拡大
<b>非財務戦略</b> ●気候変動への対応(→P.53) ●人材戦略(→P.31) ●技術戦略(→P.33)	

## 中期経営計画の歩みと位置づけ

当社は、2000年度から7度にわたる中期経営計画において、事業構造の改革や収益力・財務体質の改善に取り組んできました。PLAN27は、これまでの「地固め」、「攻めへのシフト」の期間を経て、長期ビジョンの実現を確かなものにするための重要な期間として位置づけています。



## 資本政策と株主還元

### 資本政策に関する基本的な考え方

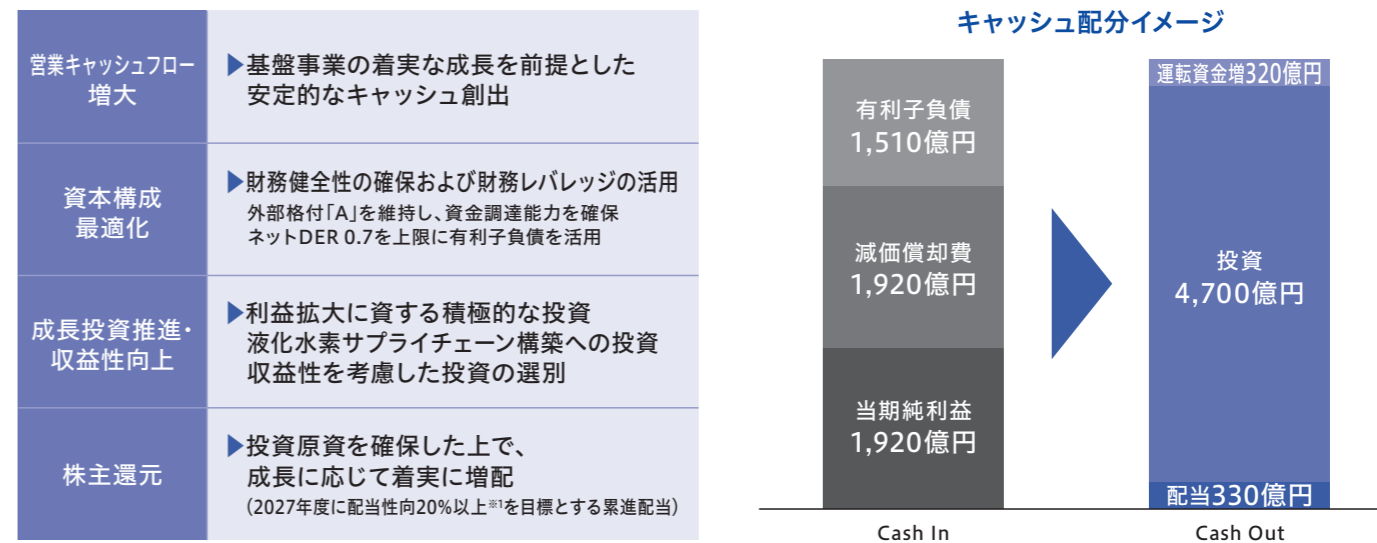
基盤事業での着実な収益の拡大を前提として生み出された営業キャッシュフローに加え、有利子負債による調達を行い、水素エネルギー社会の実現や持続的成長に向けた投資を優先して実行し、5年間累計で4,700億円の投資を計画しています。資本コスト低減に向けてエクイティファイナンスは行わず、有利子負債を活用します。資金調達能力の確保のため、外部格付「A」維持の目安となる、ネットDER 0.7を上限として有利子負債を活用する方針です。

### 株主還元について

PLAN27では、配当性向20%以上\*1、減配を行わない累進配当という目標を、当社として初めて明示しました。利益成長に応じて着実に増配し、最終年度にあたる2027年度には1株当たり160円程度を見込んでいます。

## PLAN27資本配分の基本的な考え方

- 財務健全性の確保および財務レバレッジの活用(ネットDER 0.7以下)
- 水素社会実現や持続的成長に向けた積極的な投資
- 配当性向20%以上\*1を目標とする累進配当



## 投資の内訳

	投資額	投資内容
成長投資	4,200億円	
重点施策	3,200億円	●CO <sub>2</sub> フリー水素サプライチェーン構築 ●低・脱炭素ビジネス推進 ●国内エネルギー事業拡大 ●海外での成長投資
基盤事業	1,000億円	●国内エアセパレートガス供給能力拡大 など
保守・修繕	500億円	●LPガス工場の修繕 など